

福祉たすけあい基金BOOK

9期・10期の助成団体紹介

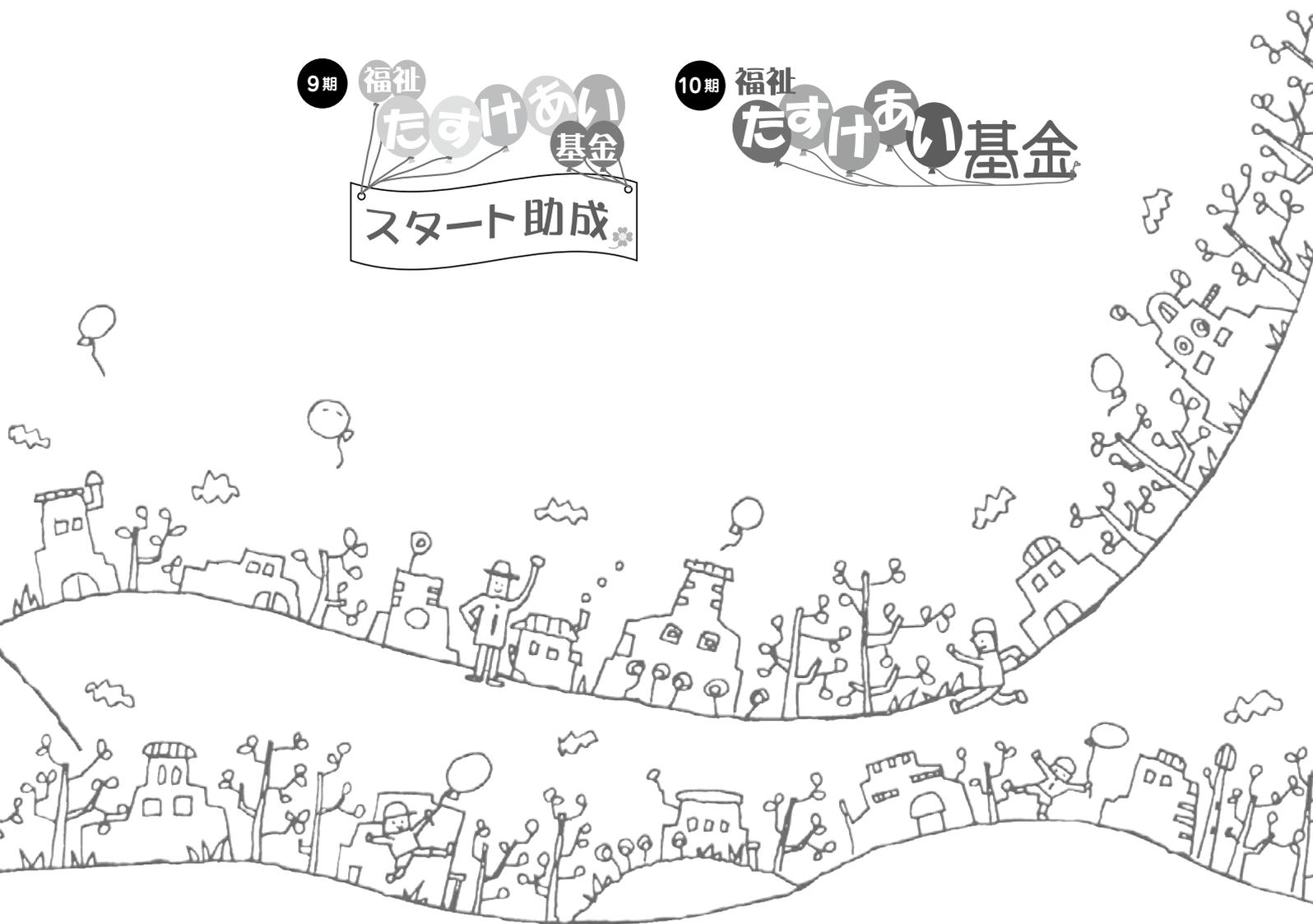
9期

福祉
たすけあい
基金

スタート助成

10期

福祉
たすけあい
基金



公益財団法人

かながわ

生き活き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund

目次

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は	3
福祉たすけあい基金とは	4～5
【第9期福祉たすけあい基金（第3期スタート助成）助成団体】	
子どもひろば「みらい」	6
お福わけの会	7
認定NPO法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク	8
キッチンうめちゃん	9
NPO法人 子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ	10
ら・ぱれっと	11
つばき学習会	12
NPO法人 結の樹 よってけし	13
ワーカーズ・コレクティブ びすけっと	14
ぱくぱく食堂	15
NPO法人 はだのあすなろ会	16
パステルゾーン育児の会	17
親と子の寺子屋ふれあい自遊塾（3回目申請）	18
NPO法人 いーぶらす（2回目申請）	19
本もく座（2回目申請）	20
ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in横浜（2回目申請）	21
【第10期福祉たすけあい基金助成団体】	
NPO法人 GOOD JOB	22
NPO法人 のびの会	23
コミュニティカフェ6丁目クラブ	24
NPO法人 宮ノマエストロ	25
NPO法人 青空保育ぺんぺんぐさ	26
ちがさき開智舎	27
相模原誘導グループささの会	28
よこはま地域子育て支援拠点ネットワーク	29
NPO法人 フードバンク横浜	30
NPO法人 南えびなスポーツクラブ	31
NPO法人 日本補助犬情報センター	32
財団を応援する「賛助会員」募集と「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い	33～34
賛助会員・福祉たすけあい基金寄付申込書	35

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は・・・

◆成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合（1971年創立）は、90年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク（「女性・市民コミュニティバンク」の前身）をつくり、1998年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は2003年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の10年間の助成活動の実践を経て、2013年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団法人かながわ生き生き市民基金」を設立しました。

◆ミッション

<投資して利潤を稼ぐことが経済>という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくるのが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、子どもや障がいを持つ人が生きにくい社会になっています。

かながわ生き生き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくのお金などの社会資源を拠出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き生き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を通じた市民活動・事業への支援です。現在3つの助成プログラムを行っています。

福祉たすけあい基金（2015年度から通常型助成とスタート助成を実施）は、意思ある生活クラブ組合員1万1千人の月100円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラム「エラベル」は、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラム（2015年助成の「子どもいきいき助成」）は寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業以外には、講座事業、ネットワーク事業などを行っています。



福祉たすけあい基金とは

福祉たすけあい基金はこれからの地域社会をつくっていくために、市民自らが福祉活動の主体となっていくこと、そしてその基盤となる市民同士がたすけあう関係を育て、地域を豊かにしていくことをめざして生み出しました。かながわ生き生き市民基金の助成事業の一つに留まらず、かながわ生き生き市民基金を支える基金です。福祉は人々の生活そのものと言ってもよく、福祉たすけあい基金では高齢者、子ども、女性、外国人、障がい者など様々な弱い立場の人々を支援する活動に助成しています。

福祉たすけあい基金の特徴 ～1万人に支持される基金～

福祉たすけあい基金は市民一人ひとりから毎月（毎年）寄付を集め、おおぜいの力でまとまった額の基金を創りだしているのが特徴です。98%以上に当たる寄付が生活クラブ組合員1万人以上の毎月100円の寄付で寄せられています。これだけおおぜいの寄付者が趣旨に共感し、継続的に基金を支えていることは福祉たすけあい基金の最大の強みです。今後も顔の見える支持者をさらに拡げつつ、基金のミッションを伝え地域に拡げていかなければならないと考えています。

福祉たすけあい基金の助成事業

毎年2回助成を行います。1申請上限100万円の助成（通常型）と、比較的小さなアソシエーション等の活動の立ち上げや、活動初期の基盤づくりを応援する「スタート助成」をそれぞれ1回ずつ行っています。福祉たすけあい基金にはこれまで206団体から約1億600万円の申請があり、地域で福祉たすけあいの市民活動を行う108団体へ約3,500万円を助成しました。

第9期からは「スタート助成」を既存団体の新規事業立ち上げにも拡げ、これによって既に地域で活動実績を持つ団体が、これまでの実践を通して見えてきた新たな地域課題の解決にも活用が広がっています。

福祉たすけあい基金 助成事業	福祉たすけあい基金 ～通常型～	福祉たすけあい基金 ～スタート助成～
		
助成総額	400万円	500万円
1件当たり上限	100万円	40万円
活動回数の制限	なし	最長3回まで同一事業での申請可能



✂ 1期～10期までの申請・助成実績（5期、7期、9期はスタート助成）

1期	2014年4月助成	申請 34 団体 約 2400 万円	助成 9 団体 451 万 4100 円
2期	2015年2月助成	申請 17 団体 約 700 万円	助成 12 団体 394 万 4950 円
3期	2015年5月助成	申請 34 団体 約 2400 万円	助成 11 団体 382 万 2000 円
4期	2015年8月助成	申請 20 団体 約 1000 万円	助成 13 団体 338 万 9131 円
5期	2016年3月助成	申請 12 団体 約 390 万円	助成 6 団体 166 万 7633 円
6期	2016年8月助成	申請 11 団体 約 640 万円	助成 7 団体 324 万 5769 円
7期	2017年4月助成	申請 15 団体 約 490 万円	助成 10 団体 249 万 3230 円
8期	2017年8月助成	申請 20 団体 約 1000 万円	助成 13 団体 400 万円
9期	2018年4月助成	申請 24 団体 約 735 万円	助成 16 団体 434 万 6100 円
10期	2018年8月助成	申請 19 団体 約 860 万円	助成 11 団体 356 万 382 円

✂ 申請事業活動の特徴

第1期から第10期までのべ108団体に助成を行ってきた中で、子ども食堂や学習支援など、子ども・若者の貧困に関する活動を行っている団体や、高齢者福祉に関する活動団体が目立っています。また障がいへの認知を広げる活動や障がいを持つ方の社会参加を支援する活動、ひきこもりのピアサポート活動からの申請もあり、人々に寄り添いたすけあいを進める幅広い活動に申請が広がっています。

第9期、第10期を見ると、地域の居場所づくりに関する申請が多いのが特徴です。高齢者、子ども若者など、世代を超えた地域の場づくり、ネットワークづくり課題に取り組み、意欲的に活動する団体が地域に広がっていることが伺えます。

✂ 市民活動の先駆性・有効性・持続性・参加性、 そして社会を変える意気込みに期待

選考に当たっては、事業・活動の先駆性や有効性、持続性と共に、広く地域の人々や団体と連携し、時間・知恵・労力・お金などを拠出し合い、市民が主体となり地域の課題を解決する参加性が重視されます。また市民事業・活動を生み出し、育成し、事業拡大するだけでなく、市民の実践を根拠にアドボカシー活動を行い、社会を変えていく志が拡がることが期待されています。

✂ 選考委員（敬称略）

委員長	手塚 明美	一般社団法人ソーシャルコーディネート神奈川 理事長
	田中 夏子	日本協同組合学会会長 イタリア協同組合研究者/農業者
	川岸 卓哉	弁護士/(特非) 原発ゼロ市民共同かわさき発電所理事長
	友澤 ゆみこ	(特非) ピッピ・親子サポートネット 理事長
	坪井 真里	東京コミュニティパワーバンク 事務局長
	高村 文子	横浜YMCA 国際・地域事業担当チーフディレクター
	種田 泉	横浜みなみ生活クラブ生協理事
	君島 周子	かながわ生き活き市民基金理事・生活クラブ神奈川副理事長

団体紹介

設立年月

2018年1月

団体の目的・活動内容

子どもたちは放課後どう過ごしているのだろう、地域のおとなたちとのつながりはあるのだろうか、という問題意識から、人と人、子どもとおとなのつながりを豊かにし、暮らしやすい地域づくりをめざします。

取り組んでいる活動の思い

デポの近隣には児童数833人の小学校があり、学童保育なども複数あるが、子ども全員を受け入れているわけではなく、子どもたちが居心地の良い場所と感じているかはわからない。子どもたち自身が居場所を選べるように、選択肢はたくさんあったほうがよい。私たちはおせっかいなおとなとして地域の子どもたちを誰でも受け入れ、見守り、育んでいきたい。生活クラブの施設を地域のひとともに使っていきたい。

活動歴

2017年の夏休みに週1回子どもの居場所を実験的にを行い、地域のおとなたちによるボランティアな活動に拡げる。

団体情報

住所 〒248-0022 鎌倉市常盤165-1
生活クラブ鎌倉デポ2階

Mail kodomohiroba.mirai@gmail.com

❁ 助成した事業・活動

子どもひろば「みらい」

❁ 内容

鎌倉デポ活用の子どもの居場所事業

❁ 助成対象

子どもの居場所立ち上げのための講師謝金・広報費・来所子どもたちの保険費用

助成をうけて…の思い・メッセージ

2018年1月から、毎週木曜日鎌倉デポの2階を借り、地域の小学生が放課後、ほっとして過ごせる場所を目指して、子どもひろば「みらい」を開いています。趣旨に賛同してくれた地域のおとなたちが、一緒にボランティアな活動として関わってくれています。地域のおとなが地域の子どもたちを見守り育てていくことをコンセプトに、みんなで話し合いながら進めています。

「みらい」を開設するにあたり、必要なものを地域の方から寄付して頂いたり、メンバーが持ち寄りしましたが、子どもたちに出来るだけ文房具類を自由に使ってもらいたいと思っています。会費を出し合い、バザーも行いましたが、基金の助成を受けることができ、活動を応援して頂いているという思いが私たちが後押ししてくれています。第9期福祉たすけあい基金スタート助成を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

工作教室
2018年8月9日



折り紙教室の様子
2018年8月2日



お福わけの会

代表 伊藤 保子

横浜市瀬谷区

助成金額
360,000円

団体紹介

設立年月

2015年12月

団体の目的・活動内容

地域で長く子育て支援活動に取り組んできた2つのNPO法人(まんま・さくらんぼ)は、現場で見えている子どもの貧困にきづき、必要な家庭に食料を手渡しできる仕組み「お福わけの会」を設立。食料配布だけでなく必要に応じた相談・生活支援・居場所の提供などを実施。

取り組んでいる活動の思い

地域の子育て支援活動の中で〈食べる〉ことに欠けるケースに出会うこともあった。できることを探していた時に大和市にセカンド・ハーベスト・ジャパン(フードバンク)の倉庫ができたことを知り、未成年を育てているひとり親世帯、生活困窮世帯に生きるために必須の食料支援を行うことになった。

家庭の困難状態は把握しにくく、夫の事故・病気などで突然生活困窮に陥った時、どこに相談してよいかわからない人も多い。またひとり親でぎりぎりまで仕事をしているため、役所の業務時間に相談に行けず、対応が遅れるなどの事例もわかった。

瀬谷区は生活保護世帯やひとり親世帯がおおく、配送ボランティアや仕分けボランティアに地域を巻き込みつつ、貧困への関心を呼び起こすことも視野に入れている。

活動歴

毎週月曜日、大和倉庫にて荷物の受け取り後各配布ポイントにて仕分け、利用者へは各ポイントより直接手渡しを行っています。

団体情報

住所 〒246-0031 横浜市瀬谷区瀬谷 4-7-19

TEL 045-303-5393

Mail manmanchi@r9.dion.ne.jp

❁ 助成した事業・活動

「食料わかちあい」

❁ 内容

利用者も参加する食料分かち合い活動

❁ 助成対象

瀬谷区内にある12か所の配布ポイントと家庭をつなぐコーディネーター費用、活動の広報費、配送ボランティア謝金、冷凍庫購入費用

助成を受けて…の思い・メッセージ

2015年より開始している食料支援ですが、年々希望する家庭が増えて来ている状況にあります。この活動で「食べられない不安」をなくすことに繋がればと思います。また、この活動を継続するためには、当事者の参加だけでなく、配送ボランティアの方を含めた地域の方々の理解も必要だと思っています。配送ボランティアや仕分けボランティアに地域の人を巻き込み活動することで、地域一体となって一人親世帯や生活困窮世帯への関心を呼び起こしたいと思っています。

毎週活躍してくれている
ボランティアさん



そのほか仕分けボランティアさん、当事者のボランティアさんもいます。地域のみんで活動をしています。

団体紹介

設立年月

2005年12月

団体の目的・活動内容

移動することを基本的人権ととらえ、障がい者や高齢者等あらゆる移動困難者とその移動を支援する非営利移動サービス市民活動団体を対象に、団体等が連携して共に育ちあうことを推進する事業を行うとともに、「移動の自由」を拡大するための調査や研究、提案活動を行うことにより、行政や公共交通機関等と協働して福祉のまちづくりをすすめることを目的として設立しました。

取り組んでいる活動の思い

高齢者・障がい者等の外出を促進するためにユニバーサルデザインタクシーの導入が始まり4年が経過したが、知的障がい児・者への対応は十分な実績をつくりていない。NPO等の有償運送では付き添いなしでの乗車ができていますが、タクシーの場合一人乗車への不安・戸惑いもある。家族や支援者以外の理解を深めることで、一人乗車を可能とし、障がい児・者の生活に欠かせない地域との接点を増やしていきたい。

活動歴

2005年

運転講習など実施（2006年国土交通省認定講習団体）

2007年より

県・地域保健福祉課、交通企画課（「かながわボランティア活動推進基金21」協働事業）と協働事業、住民主体の地域交通づくり、タクシー事業との連携

2015年より

移動サービス従事者養成研修実施（県内複数箇所・神奈川県委託事業）
住民主体の買物バス、生活交通づくりのアドバイザーなど多数

団体情報

住所 〒222-0033 横浜市港北区新横浜
1-16-2 SEエトワール602

TEL 045-534-6718

Mail

kanagawa-idounet@b04.itscom.net

URL <http://www.kanagawa-ido.net/>

❁ 助成した事業・活動

障がい児・者が一人で乗るタクシープロジェクト

❁ 内容

今まで公共交通として選択肢になかったタクシーをもっと「普通に、あたりまえに」移動手段として活用しよう、という障がい児者の移動手段の拡大のための、また、相互理解のための事業

❁ 助成対象

広報費、プロジェクト事務局費、印刷製本費

助成を受けて…の思い・メッセージ

一人では移動できない方々にはいつも家族や介助者が付き添っていますが、当たり前で一人でも移動ができれば、お互いの自由度が増します。体力的にも精神的にも自由度は必要です。そのためには、よりいっそうタクシーの公益性が増すように、障がいについての勉強会をタクシー事業者に重ねてもらい、安心して一人で乗れるような仕組み作りが大切です。

一人でも多くの人に障がいを理解してもらうことによって、一段と障がい者の社会参加が増していくのではと考えています。移動だけの問題ではなく、地域で暮らすというノーマライゼーションが進むことを模索していきます。また、この取り組みを知ってもらう広報活動を進め、たくさんの利用者を増やしていく活動に力を入れていきたいと思っています。



キッチンうめちゃん

代表 中島 裕見子

横浜市磯子区

助成金額
122,100円

団体紹介

設立年月

2017年8月

団体の目的・活動内容

磯子区に子ども食堂がないことから、磯子区・磯子区社協共催の「子ども食堂立ち上げワーキングショップ」に参加したメンバーの中から杉田地区6名で立ち上げ、月1回活動。

取り組んでいる活動の思い

- ・ 貧困家庭をだけでなく、子育て支援として子育て中の親子に利用してもらいたい。
- ・ 食生活の改善・子どもの孤立・孤食解消の一助となりたい。
- ・ 地域の子どもを地域みんなで育てていけるように私たち自身も楽しみながら継続していきたい。

活動歴

今は学習支援を受けている中高生や区内の子育て中の親子で賑わっている。杉田地域交流スペースを活用し、月1回開催。

団体情報

住所 〒235-0023 横浜市磯子区新杉田
 8-7 横浜市新杉田地域ケアプラザ内
 TEL 045-771-3332

助成した事業・活動

子ども食堂「キッチン うめちゃん」の開設

内容

磯子区になかった子ども食堂を立上げ、子どもの居場所としての「キッチンうめちゃん」の運営を行う。

助成対象

テーブルクロス、ライスボックス、布巾等の物品購入費

助成をうけて…の思い・メッセージ

平成29年2月、磯子区役所において『子ども食堂立ち上げワークショップ』が開催され3か月間の勉強会を経て、2つの子ども食堂が誕生しました。私たちメンバー6名は、「新杉田交流スペース」において、磯子区初の子ども食堂『キッチンうめちゃん』を昨年8月に立ち上げ、丸1年がたとうとしています。第1回目の食材は区社協に用意して頂きましたが、安定した食材の確保が課題になり、スーパーマーケットや企業に食材提供の協力をお願いしました。今年度は町内会自治会からも寄付をいただいております。子供たちの育成に地域の皆さんが関心を持ち支えていこうという思いが高まっています。

貧困家庭のみを対象とするのではなく、地域で子育てする親と子供が安心して気軽に利用できる居場所として、月1回30食の提供を行っています。10月からは月2回開催できるようになりました。さらに充実した居場所づくりを目指してゆきたいと思います。



NPO 法人 子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ

理事長 青島 美千代
横浜市鶴見区

助成金額
350,000円

団体紹介

設立年月

2008年5月

団体の目的・活動内容

不登校で悩む親の交流で、子どもたちが日常的に家庭以外に安心して友だちと過ごせたり、好きなことをして過ごせる場所が必要となり、当事者親たちが中心となり任意団体を設立。2014年にNPO法人となりました。

取り組んでいる活動の思い

非正規・ブラック企業と言われる職場の増加は、働きやすい職場を探すことが大変な時代になっています。
フリースペースに来ている若者や地域でひきこもっている若者からは、「アルバイトが続けられない」「大学を中退し奨学金が返せない」「親子関係が厳しくなり同居できなくなった」などの声が聞こえます。そういう若者たちの多くはアルバイトやパート・非正規雇用などでの労働契約や労働条件についての知識がなく、自己責任としてあきらめがちになります。自分らしく生きるために自分の権利を知ることが必要と思い、この企画に取り組んでいます。

団体情報

住所 〒230-0061 横浜市鶴見区
佃野町1-7-202 深谷ビル
TEL 045-834-7970
Mail ainfo@freespace-tanpopo.com
URL
<http://www.freespace-tanpopo.com/>

❁ 助成した事業・活動

「自分らしく生きる権利」を知る若者のためのプロジェクト

❁ 内容

不登校や地域でひきこもっている若者が自分らしく生きる権利を知る講座や交流会開催

❁ 助成対象

若者のジョブトレーニング費用、広報費、講師謝金

助成を受けて…の思い・メッセージ

不登校の子どもたちの居場所を始めて10年、開所当時の子どもたちはみんな素敵な若者になり、社会に一步を踏み出しています。けれど、その歩みは簡単ではありません。厳しい社会の中で、一緒に学習し、考え、支えあいながら、一人一人が大切な存在であることを忘れずに進んでいってほしいと思っています。

その取り組みに助成金を使わせていただきます。ありがとうございます。



バーベキューアスレチック場
でみんなでごはん

子どもたちと作った
手作りの看板



ら・ぱれっと

代表 重田 扶美子

茅ヶ崎市

助成金額
360,000円

団体紹介

設立年月

2015年10月

団体の目的・活動内容

10数年にわたりリユース・リサイクル事業や保育事業を行ってきた市民が、空き家を借り、地域の多世代交流スペースを開設。

取り組んでいる活動の思い

独り暮らしや高齢夫婦が増え、孤独になりがちな日常生活で、やることを見つけ新しい価値観や生活の質の向上を目指し、シニア女性が地域で役割を見出すきっかけとしての小さな仕事づくりミシンカフェを開催しています。

また孤独な子育てで産後うつを訴えるお母さんたちも多く、お母さんたちが情報交換したり、ご飯を一緒に食べ交流する場を0歳、1歳の赤ちゃんとお母さんの赤ちゃんカフェとして取り組んでいます。

活動歴

2015年秋から、茅ヶ崎市十間坂の古民家を借りて活動。地域に根ざした様々なイベント開催、フリースペース事業を行っています。

団体情報

住所 〒253-0045 茅ヶ崎市十間坂
3-10-36

Mail shige-fumi@jcom.home.ne.jp

❁ 助成した事業・活動

お母さんと赤ちゃん、シニア女性たちの集えるカフェ事業

❁ 内容

シニア世代、ママ世代の相互交流カフェ事業

❁ 支助成対象

ミシン等物品購入費、講師謝金、家賃の一部

助成をうけて…の思い・メッセージ

居場所づくりをしていて、いつでも使える場所を自分たちで持っていることはとてもたいせつなことだと感じています。そのために必要な家賃の一部や、皆さんにこの場所を知ってもらうためのホームページ作成の広報費等に今回の助成金を使わせて頂きました。

地域の中で、安心して人々が集える居場所づくり、多世代の人がつながり、お互い様の助け合いで、自分たちで、暮らしやすいまち作りしていけるようにこれからも活動を継続していきたいと思っています。



団体紹介

設立年月

2017年7月

団体の目的・活動内容

川崎市高津区で生活保護家庭の中学生に学習支援を行っていたが、小学生の頃の苦手を引きずる子どもが見られた。教員の負担増加、共働き家庭の増加などで、周囲のおとなが子どもに時間をかけられなくなっていることがわかり、福祉や教育に携わるメンバーが集い、発達障がい児のための学習支援と親を含む居場所の開設に取り組んだ。

取り組んでいる活動の思い

区ボランティアセンターの仲介により、地域療育センターから地域の子どものニーズを聞き取ったところ、「発達障がい児の増加と教員の負担増により、現在の学校では子どもに満足な学習支援ができていない」という相談が多く寄せられていた。支援級の子どもの親からは支援級以外の子どものとの交流の希望、同じ境遇で悩む親同士の交流の場が欲しいという希望に応えたいと思った。

運営スタッフは教育や福祉の現場経験者や学生で占められている。今後は徐々に地域での人材確保に努め、どんな子どもでも役割を持てるように居場所を作りを進めていきたい。

活動歴

2017/7/29 ~
つばき学習室@幸(1/w)

2017/9/30 ~
つばき学習室@川崎(1/m)

2018/5/30 ~
つばき学習室@浜川崎(1/m)

団体情報

住所 〒232-0071 横浜市南区永田北
2-18-5

TEL 080-6585-0880

Mail tubaki-gakusyusitu@outlook.jp

URL

<https://www.facebook.com/tsubakime/>

事務局 五十嵐潤

❁ 助成した事業・活動

つばき学習室

❁ 内容

発達障がい児のための無料学習支援

❁ 助成対象

広報費、交通費一部、保険費用

助成を受けて…の思い・メッセージ

学校の授業と肌が合わない経験を皆様もされたことはありますか。現在活動する地域では、こうした傾向がある子どもがクラスに多いところだと7人はいると聞いています。「障害」とひとくくりにしてもその境界は曖昧なもので、彼らの全員が個人にあった学び方を手にしているとは限りません。

当会は施設からのご協力を得ながら、障害があってもなくても地域で“誰もが”勉強できる居場所づくりを進めています。この度はより多くの方に当会を知ってもらうための広報費やより多くの子どもと一緒に勉強するためのサポーターの交通費一部補填等、活動の活性化のために助成をいただき、誠にありがとうございました。

まだ立ち上がったから間もない団体です。積極的に学びながら子どもの学力保障を目指して尽力してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



NPO法人 結の樹 よってけし

理事長 岩澤 克美

清川村

助成金額
400,000円

団体紹介

設立年月

2015年10月

団体の目的・活動内容

村の人口が減少し、少子高齢化が進む中で、清水ヶ丘団地は2025年には高齢者が4割を超える。転入者が多くコミュニティが希薄で、高齢者も障がい者も地域で安心して暮らせるように、地域交流を基本に生活支援等を目的に設立。

取り組んでいる活動の思い

NPOが主体となり、村にある交通支援団体、住民交流団体（子ども会・老人会・趣味の会等）の連携を促進し生活支援に結び付ける体制をつくりたい。

高齢者単独世帯・高齢者のみ世帯では困難な生活支援、例えばコミュニティバス利用者の利便の向上、買い物支援、清掃・洗濯・食事などの生活支援、役所への手続き・軽微な故障修理の問い合わせなど日常生活の利便を図るために、支援事業に参加する人々を募集し、持続的なたすけあいの村づくりをめざします。

活動歴

よってけしの業務は8つあります。

- 1) 食事提供及び弁当宅配・販売業務
- 2) 農産物加工・販売事業
- 3) 住民交流促進事業
- 4) 健康づくり支援事業
- 5) 地域安全見守り事業
- 6) 資源有効活用事業
- 7) 出張美容院・美容師派遣事業
- 8) 地域就労支援事業

団体情報

住所 〒243-0112 愛甲郡清川村煤ヶ谷
1103-51

TEL 046-288-2595

Mail yottekeshi@kbh.biglobe.ne.jp

URL <https://yottekeshi.jimdo.com/>

 助成した事業・活動

つなぐ・つながる・支えあう小さな村のたすけあい活動

 内容

地域の交通支援活動や住民交流組織などの団体間の連携を促進し生活支援に結びつける体制づくりの推進。

 助成対象

ニーズ調査のためのコピー機パソコン等物品購入費

助成をうけて…の思い・メッセージ

よってけしが活動拠点としている清水ヶ丘団地地区は、近い将来村内で一番の高齢化となります。

村のアンケート調査では、今後も村で暮らしたいとけれど、村での暮らしに不安を抱く人たちが90%もいます。

これらの不安材料を一つ一つ洗い出して、出来るところから解決をしていかなければなりません。その為の活動は、コツコツと地道な作業が必要です。アンケート調査・分析を行い施策実行改善等、沢山ある問題解決の為に地域の方々と一緒になって仕組み作りから考え、課題解決の施策を運営をして参ります。

今回の助成金を通して、具体的な活動をスタートする準備ができました。この活動を通じて、長年住み慣れた地域で安心して生活できる環境作りを目指し、お互い様の助け合い活動を成功させたいと切に望んでおります。



定例のお茶会



ジャムづくりの協力者



メール便で地域見守りも



世代を超えて集まる拠点「よってけし」

団体紹介

設立年月

2017年3月

団体の目的・活動内容

2015年に行ったミニフォーラムで地域に必要な子育て支援が高津区の地域課題と捉え、非営利・協同による子育て支援をワーコレ方式で立ち上げることとなった。

取り組んでいる活動の思い

高津区では認可保育園が急増しているが、大規模・中規模保育園がほとんど。保育者(大人)の眼が届きやすく、一人ひとりの子どもと充分関わることができ、乳児期に必要な信頼関係が形成されやすいとされる小規模保育園にチャレンジする。またワークライフバランスを尊重したワーカーズ・コレクティブの働き方を見せることで、賛同者・共感者を増やし、ワーカーズを増やしていきたい。

活動歴

2017年3月

ワーカーズコレクティブ びすけっと設立

2017年9月

認可外保育施設「保育室びすけっと」事業開始

団体情報

住所 〒213-0001 高津区溝口

3-22-43 ハイツ大屋 103

TEL 044-712-3006

090-5411-9401

Mai wco.bisucuit@gmail.com

✿ 助成した事業・活動

認可外保育施設「保育室びすけっと」の運営・自立化

✿ 内容

認可外保育施設での月極め、一時預かり事業

✿ 助成対象

賃借料一部

助成をうけて…の思い・メッセージ

子どもたちの健やかな育ちを願い、自分たちの住み暮らすまちが子育てしやすいまちとなるよう、2017年3月に「ワーカーズ・コレクティブびすけっと」を設立し、同年9月に「保育室びすけっと」を開設しました。(※微力ながら助っ人になりたいという思いを込めて「微助っ人→びすけっと」と名付けました。)

川崎市から「認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証明書」を頂いているものの、無認可保育園であることに変わりはなく、何ら助成を受けずに現在に至っています。毎月、家賃分に相当するくらい赤字が出てしまいますので、この度の福祉たすけあい基金からの助成はとて助かりました。これを機に、今後は1日も早くW.Coとして自立できるよう、またあったらいいなと思う保育園づくりを目指して、これからもスタッフ一同、元気に活動していきたいと思っています。



ぱくぱく食堂

代表 斎藤 輝美

綾瀬市

助成金額
140,000円

団体紹介

設立年月

2017年10月

団体の目的・活動内容

さがみ生活クラブ生協組合員がつくる自主組織のあやせ commons では、共働きやシングル家庭の増加から、子どもの食を課題と捉えていました。「あいおいみんなの食堂」の活動やさがみ生活クラブ主催のプロジェクトに参加し、活動をスタートさせた。

取り組んでいる活動の思い

食べることを通して、人の関わりを繋げたいとの思いから、最初は生活クラブ活動拠点を借りてぱくぱく食堂を実施、綾瀬市内ではまだ子ども食堂は1か所しかなく、参加しやすい場所にある新設の福祉プラザでの開催につないでいきたい。孤立や貧困家庭が増える中でも、一人じゃないと感じることで、親も子も安心でき成長できると思う。子どもが幸せに生きられる地域づくりをめざして、まずはできることから始めよう。一緒にご飯を食べたりする場をつくり、いろいろな人に関わろう。子どもたちのための食堂づくりをめざします。

活動歴

2017年10月より、生活クラブあやせセンター内で月2回ランチタイムに「ぱくぱく食堂」を開催。

2018年3月、保健福祉プラザで「みんなで楽しくぱくぱく食べよう!! ぱくぱく食堂」を開催

団体情報

TEL 080-7825-9185

Mail

pakupaku.shokudou@gmail.com

助成した事業・活動

ぱくぱく食堂

内容

子ども食堂の開設

助成対象

保険費用、交通費補助、会場費

助成を受けて…の思い・メッセージ

ぱくぱく食堂では、参加者からの材料費と地域の方の寄付をいただきながら、食材の準備をしています。しかし、それだけでは賅いきれない会場費や広報費・保険などの必要経費があります。今回、皆様からの応援して下さる思いのこもった基金を助成していただくことができました。その助成金を大切にに使わせていただきながら、この活動を継続し、地域にひろげていきたいと思っています。これからも食を通して人と人がつながっていけるような場づくりをめざしていきます。ありがとうございました。

調理風景



会食風景



献立例



団体紹介

設立年月

2012年2月

団体の目的・活動内容

障害者、高齢者その他引きこもり・閉じこもり等の社会的弱者に対して、障害者自立支援に関する事業、環境保全のためのリサイクル事業等を行うことにより、障害者・高齢者等が社会活動に参画し、就労の機会を得られるように支援し、さらに地域の中で助け合いのネットワークを築くことによって公共の福祉に寄与することを目的として活動しています。

取り組んでいる活動の思い

本会は、知的や精神、身体的に障害をお持ちの方の社会参加等への自立支援を行っています。

作業所は、秦野3R推進事業協同組合の工場の一部を借用し、同組合の従業員と共に、ペットの解体、ペットボトルのラベルはがしなどを中心としたリサイクル事業に携わっています。

また、作業内容の拡充を図るため、新たに水耕栽培の研究に取り組み、平成30年4月から水耕栽培事業にも取り組みを始めました。

活動歴

平成26年5月1日から「あすなるリサイクル作業所」を開設

団体情報

住所 〒259-1304 秦野市堀山下98番

TEL 0463-87-2525

Mail info@hadano-asunaro.jp

URL

http://www.hadano-asunaro.com/

助成した事業・活動

就労継続支援事業B型の水耕栽培事業

内容

安定した作業を確保するために、秦野3R推進事業組合の工場の一部を植物工場に改造し新たに水耕栽培を手がけ、利用者の作業の拡充と安定した工賃の確保に努める。

助成対象

物品購入費（栽培用機材・LED電球）

助成をうけて…の思い・メッセージ

このたび、利用者さんの作業場の拡充を図るため、水耕栽培を手掛けることとし、試行錯誤の手作りで、LED電球を使用したキット整備をしてきたところ、LED電球の光量がキットの両端に行き届かなく、野菜の生育に支障を来たしていました。

そこで、この光量不足を補うため、足りない40センチメートルのLED電球を探していたところ、貴基金の助成制度を知り、貴基金にお願いしたところ、お認めいただき購入することができました。お陰様をもちまして、両端の背丈もバランスよく、美味しい水耕栽培による野菜（レタス類）を出荷できるようになりました。

利用者の皆さんには、収穫はもとより種の植付け、毎日の水槽の温度、PH、葉の背丈の記録などの作業していただいています。

今後、販路の開拓をいかにするかという課題も抱えていますが、みんなで頑張っていきたいと思っています。



作業所全景



環境リサイクル作業風景

水耕栽培作業風景



おいしいレタスの
出来上がり



助成を受けたLED電球



パステルゾーン育児の会

代表 塚原 敦子

横浜市鶴見区

助成金額
280,000円

団体紹介

設立年月

2014年4月

団体の目的・活動内容

発達障がいの子どもへの支援は多くあるが、その保護者を支援する制度はなく、特に日常生活を共にすることの多い母親の負担は精神的にも大きい。ピアカウンセラーの場が必要と考えて、自助グループ事業活動で始めることとなりました。

取り組んでいる活動の思い

鶴見区は児童数が多く、増加傾向にあります。支援級在籍児童数は455名(2016年)市内で最も多く、放課後等ディサービスのニーズは高い。小学校入学時の障がい児の親には、普通級・支援級・支援学校の選択、判定を受ける、希望小学校への問い合わせ、見学・話し合い、さらにどういう放課後等ディサービスを選ぶか等、スペシャルニーズの子どものスムーズなスタートのために、多くのタスクが求められます。しかし情報収集は難しく、区内18か所のディサービスの保護者が知りたい情報をガイドブックとしてまとめ、保護者と事業者をつなぎ、子育てしやすい鶴見をめざします。

会の名前のパステルゾーンとは、発達障害の子どもが、白か黒かのグレーゾーンではなく、もっとさまざまな色をもって光があたれば輝くという意味です。

活動歴

男女共同参画センター横浜南の自助グループ事業として2014年より活動スタート(現在継続中)

団体情報

住所 〒230-0078 鶴見区岸谷4-8-11

TEL 090-4052-8959

Mail info@warm-place.com

URL http://warm-place.com

❀ 助成した事業・活動

放課後等ディサービスガイド鶴見区版の作成

❀ 内容

区内18か所の放課後等ディサービスの利用希望者が知りたい情報をまとめ、必要な人や区内の関連施設へ配布する。

❀ 助成対象

印刷製本費、通信費、交通費、会議費

助成を受けて…の思い・メッセージ

子どもに合った放課後等ディサービスに出会いたい!

- ・放課後等ディサービスの情報がない。区役所でもらえるのは一覧だけ。あとは自分で調べるしかない。
- ・自分の子どもとの相性や、親の希望(学習面や療育面や活動面)をもっと知りたいが、対象者が限られている上、デリケートなことなので、口コミも起こりにくい。
- ・放課後等ディサービスのガイドブックを作成することで、希望する人が情報収集するきっかけづくりを!



期待はしすぎない、でも希望は決して捨てない。

お茶を飲み
ましょうわたしの話
も聞いてく
ださい話しても早
退でも全然
予約もしり
ません茶がまだ
熱いので
おかけは
わりませ
んあなたの話
しを聞かせ
てくださいここは安全
みんな同じ
思いです否定はしな
いルール
です

団体紹介

設立年月

2015年10月

団体の目的・活動内容

近年、子どもの問題が多発深刻化している。心の成長を促すことが予防と回復に繋がるとの考えから、子ども達が自分自身を大事にしながら、安心して人とかかわりあう力を身につける体験の機会を提供する。

取り組んでいる活動の思い

子どもの発達成長は遊びを中心に展開することから遊びの持つ力を活用した心理教育的ワークショップを柱とする。

ドイツのテーブルゲームを使い自己主張と譲り合いといった体験を繰り返し、問題解決力、立ち直る力、忍耐力などを育みたい。

地域に広がるためにワークショップ講師を養成し活動の展開を図りたい。

活動歴

2014年、公民館家庭教育学級から始まった活動は、3つの特色あるワークショップを各々1回開催。1年間で130組350名が参加。

他に地域イベント、保育園に出向き多くの親子がかかわりあう楽しさを体験しました。

エッコロ講座にも登録しています。

団体情報

住所 平塚市 (非公開)

TEL 070-2629-1986

Mail jiyujyuku@chic.ocn.ne.jp

URL <http://jiyujyuku.main.jp/main/>

助成した事業・活動

親と子の寺子屋ふれあい自遊塾の活動運営

内容

臨床心理士の経験をもとに、現代社会において欠けがちな、子ども達が人と触れ合う体験をワークショップやゲームに取り入れ、人と触れ合う体験を創出・提供する。

助成対象

人材育成研修費

助成を受けて…の思い・メッセージ

3年間にわたり助成金をいただきました。感謝あるのみです。組織の基礎作りから始まり、今年度は研修会開催のために使わせていただきます。子どもの心に真に寄り添う大人の方々が一人も多くなり、と一緒に活動してくださる会員を募りたいと思います。

『一人ひとりの育つ力を育てたい』をモットーに地道に活動を継続してまいります。有難うございました。



NPO法人 いーぷらす

理事長 上原 陽子

横浜市金沢区

助成金額
388,000円

団体紹介

設立年月

2015年10月

団体の目的・活動内容

障害者の働く場所が、地域の中で開かれた市民の憩いの場になることを目的とし、ドッグカフェ、もの作りを行っています。

取り組んでいる活動の思い

神奈川で初めて障がいの方が働いている「ドッグカフェ」を運営しています。障がいの方がフロアやキッチンの仕事にやりがいを持って働いています。手作りした犬のおやつの販売や、もの作りとしてデザイン画から商品開発するなどそれぞれの力を色々な形で表現する場でもあります。

地域の方の手作り品をお預かりして「トレジャーボックス」で販売しています。お店は物を販売するだけでなく、当たり前前に障がい者と地域の方々の交流する場として活動の輪が広がっています。また、利用者さんがやりがいを感じて頂けることを目的に受注作業を行っています。

活動歴

2016年8月1日、横浜市金沢区にドッグカフェ&もの作り「のあのお」を開所

団体情報

住所 〒236-0042 横浜市金沢区
釜利谷東6-1-23
TEL 045-512-6407
FAX 045-873-9613
Mail e-plus@kb4.so-net.ne.jp

ドッグカフェのあのお

住所 〒236-0042 横浜市金沢区
釜利谷東6-1-20
TEL 045-785-1188
URL
<http://www002.upp.so-net.ne.jp/e-plus-noahnoah/>

助成した事業・活動

就労継続支援B型(ドッグカフェ・ものづくり)の運営

内容

通常の事業所に雇用されることが困難な障がい者に就労の機会を提供するとともに生産活動を通じてその知識及び能力向上のための訓練を行う。

助成対象

キッチン作業をスムーズにする為、厨房流し台改修工事を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

今回の助成を受けて厨房流し台が改修され、狭いながらも動きやすく、安全なキッチンになりました。

今後もひとりひとりがやりがいのもてる作業場として活動して行きたいと思っています。



団体紹介

設立年月

2015年11月

団体の目的・活動内容

地域の学校、幼稚園、地域ケアプラザ、地区センターなどで、本読み、紙芝居、手遊び、歌等の活動を行うことにより、地域の明るいまちづくりに貢献する。

取り組んでいる活動の思い

キッズクラブで放課後も小学校に残る子の中には、朝食や夕食を家族と一緒にとれない環境に置かれている児童がいます。私たち「本もく座」の活動を行なうことによって、そのような子どもたちが絵本を通じて、色々な話を聞き、そこから自分らしく強く生きていくための糧を見つけてくれることを願っています。

地域ケアプラザの活動では、認知症の症状がある中でも、社会とのつながりを求めている方が大勢います。そのような方にとって社会と繋がっていると実感していただけるような活動を心がけています。

活動歴

活動開始から、丸3年になろうとしています。2017年度は101回延べ1800人以上の方を対象に活動いたしました。活動範囲は本牧から新山下地域ケアプラザに拡大しました。

また、毎年、本読みボランティア養成講座を開催し、その中で、会員のスキルアップと意欲の向上をはかり、毎年新しい会員を獲得してきました。

団体情報

住所 (非公開)

Mail grhonmokuza@gmail.com

❁ 助成した事業・活動

本の読み聞かせ「本もく座」の運営。

❁ 内容

横浜市中区本牧地域において本読み等の活動をボランティアで行い、地域の明るいまちづくりに貢献する。

❁ 助成対象

研修費・講師謝金

助成をうけて…の思い・メッセージ

今年11月で本もく座は結成3周年を迎えます。絵本を通して、赤ちゃんから高齢者まで人生のいろいろなステージを生活している人たちと接してきました。通ってきた道やこれからの道は、自分たちの人生と考え合わせることも多く、このボランティア活動を通して人生がとても豊かになりました。

また、3周年を記念して地元本牧に伝わる民話の中から、「亀の子さま」という創作紙芝居の制作を始めました。戴いた助成金の中からさっそく紙芝居の舞台を購入させていただきました。今年のなか区ブックフェスタでは、この舞台で本もく座初の紙芝居を口演します。乞うご期待です。ありがとうございました。



八聖殿資料室



十五夜さま
(本牧地区センター)



ひまわり



七夕さま



大島小学校にて

ひきこもり当事者グループ
「ひき桜」in横浜

代表 割田 大悟

横浜市青葉区

助成金額
360,000円

団体紹介

設立年月

2015年6月

団体の目的・活動内容

神奈川にはひきこもり当事者が過ごせる場所が限られており、特に40歳以上の方が参加できるところは非常に少ないところから、年代・性別に関係なく安心して過ごせる居場所をつくりたいと考え、ひきこもり経験者4名で設立。

当団体は「居場所の開催」「ピアサポート普及啓発活動」を主な柱とした活動を行っている。また今年度は自宅に居ながら居場所参加者と交流できる「オンライン当事者会」を実施予定。

取り組んでいる活動の思い

当団体の活動では「横のつながり」を大事にしている。ピア同士でつながることでお互いに交流ができ、それにより各自のやりたいことに向けて歩んでいければ良いのではないかと考えている。さらに先駆的取り組みであるピアサポート普及啓発活動を通して、ひきこもり経験者が地域で活躍できる基盤を整えていきたい。

活動歴

2015年7月 第1回居場所開催

2016年6月 女子会開催

2016年度

当事者主体によるひきこもりピアサポート普及啓発事業実施

2017年度

ひきこもり当事者主体によるピアサポート学習プログラムのモデル事業実施

2018年度

ひきこもり当事者主体によるピアサポート普及啓発に向けた継続事業実施。NHK厚生文化事業団わかば基金PC寄贈プログラム採択

団体情報

住所 (非公開)

Mail

hikizakura.yokohama@gmail.com

URL

http://hikizakura.hatenablog.com/

❁ 助成した事業・活動

ひきこもり当事者主体によるピアサポート普及啓発に向けた継続事業。

❁ 内容

先駆的なピアサポート学習会の開催により、ひきこもり当事者がピアサポート活動するための普及啓発に貢献する。

❁ 助成対象

学習会の開催、ファシリテーション講座の開催費用

助成を受けて…の思い・メッセージ

2期連続で助成をいただけたことに感謝いたします。全国でも稀な取り組みを続けていますが、少しずつピアサポートの認知度が広がってきたと思います。少しでも多くの方に知ってもらえるよう、またひきこもり経験者が地域で新たな活動がしやすいよう、これからも様々な取り組みを通して社会貢献していきたいと思っております。



ゼミ演習の様子



ゼミ全体共有の様子

団体紹介

設立年月

2014年6月

団体の目的・活動内容

障がい者や高齢者が生き生きと自分らしく過ごせる地域にしていきたいと考え、障がい者の福祉の増進（移動支援・福祉有償運送）、まちづくり（地域カフェ）、障がい者の職業・雇用機会の拡充をめざして活動を始めました。

取り組んでいる活動の思い

近隣に80代の独居女性が増える中で気軽に交流する場のニーズがあり、週1回の食事と一緒にできる場づくりに取り組みました。

食事を一緒に食べるだけでなく、高齢者の方にとって経験値の高い手仕事で社会貢献ができるという付加価値をつけることによって、よりいきいきと暮らせるようになると考えました。一方、低体重児のベビー服や病気や障がいので既製品の服が着られないなど、スペシャルニーズのある人の洋服づくりに地域住民がかかわることで素敵な事業になり、交流も増えるだろうと考えました。また、ミシンを持たない若い世代の女性たちにも場を開放することで、日常的にたすけあえる関係を新たに作っていききたいと思えます。

活動歴

障がい者の福祉の増進（移動支援・福祉有償運送）、まちづくり（地域カフェ）、障がい者の職業・雇用機会の拡充をめざし設立。

団体情報

住所 〒234-0054 横浜市港南区

港南台7-18-17

TEL 045-833-2022

Mail npogoodjob@yahoo.co.jp

助成した事業・活動

独居高齢の居場所サロンでの作業所づくり

内容

独居高齢女性のサロンでの地域住民によるスペシャルニーズのある人の洋服づくり

助成対象

職業用ミシンなどの物品購入費

助成をうけて…の思い・メッセージ

2017年4月から2500g以下で生まれた低体重児のベビー服作りを、ケアプラザの一室でボランティアを募り始めました。ミシンがないため各々持ち帰り、行っていたのですが、効率が悪かったため、自宅の1室をソーイングスペースとして定期的に開放することにしました。

今回の助成で、どんな要望にもお応えできるレベルのミシンを購入することができ、ベビー服に限らず、生まれつきの障害や中途障害、ケガ等で既製服が着られない人々に対し、オーダーメイドで対応できる環境を整えることができました。すべての人がおしゃれを楽しみ、素敵な外出ができるようサポートしていきたいと夢が膨らんでいます。

また、ソーイングスペースは、地域の方々が気軽に立ち寄り、お茶や飲食もできるようにして、一人暮らしの独居高齢者や障害者などの居場所としても機能させていきたいと考えています。

ベビー服とおそろいの
ママ用マスク巾着セット



NICUの赤ちゃん用
ベビー服



購入したミシンを使って

特定非営利活動法人 のびの会

理事長 久間 久恵 横浜市、全国

助成金額
500,000円

団体紹介

設立年月

1998年10月

団体の目的・活動内容

摂食障害やパーソナリティ障害を有する本人たちの治療グループの発足をきっかけに、本人や家族の回復支援を行い、疾患関連死の減少と本人らの社会適応能力の向上促進を目指す活動を行っています。

取り組んでいる活動の思い

NPO法人のびの会は、摂食障害を始めとする思春期青年期精神疾患を抱えるご本人とご家族を支援しています。これまでは「食べたら治る」「我儘」「親の育て方」といった理解でしかなかった難しいこれらの病気ですが、ご本人やご家族、関係者の方々に少しでも回復のチャンスが提供できて、一緒に歩んでいける団体でありたいと願っています。

活動歴

1991年 摂食障害患者らの治療グループ結成、家族会

1998年 グループと家族会有志による摂食障害作業所の自主運営を開始。

2007年 NPO法人取得

2009年 神奈川県との協働事業開始。これまでの活動に加えて、宿泊教育事業を行い(期間限定)、専門相談室を設置した。現在5部門11事業を運営。

団体情報

住所 〒236-0014 横浜市金沢区寺前
1-1-28-3F

TEL 045-787-0889

FAX 045-787-0889

Mail info@nobinokai.ne.jp

URL http://www.nobinokai.or.jp

❀ 助成した事業・活動

精神疾患を抱える本人とその家族に対する生活支援者育成事業

❀ 内容

パーソナリティ障害を有する本人や家族の支援に関心を持つ人たちを対象に、摂食障害や境界性人格障害をテーマとした講演会の開催

❀ 助成対象

講師謝金

助成を受けて…の思い・メッセージ

人は普段生きていることが当たり前だと思っています。しかし様々な理由で、そう思えない人たちがいます。彼女らが生きることになるには、長い時間とたくさんの体験を社会の中で積み重ねることが必要です。

私たちは発足からの20年の年月を、こうした出会いを探して歩んできました。この度の助成をいただき、さらに一人でも多くの人々の生きる力に、そして、それを提供してくださる地域社会の方々に出会う活動に繋がっていきたいと思っています。



講演会の様子



歴史の長いミニコミ

団体紹介

設立年月

2016年4月

団体の目的・活動内容

高齢化・少子化が進む地域で、住み慣れた地域でたすけあいながらできるだけ長く自分の家で暮らしていきたいと願い、地域の誰もが集える「居場所づくり」をはじめました。

地域に根差したコミュニティカフェとして、地域の高齢者や子どもたちの拠点となっています。

取り組んでいる活動の思い

地域の子どもたちが放課後安心して過ごせる場所を提供します。

豊かな自然の中で学校とは異なる自由な場、楽しい場を提供し、子どもの健やかな育ちを応援することで、子育て世代が「今泉台に住んで良かった。」と思えるような事業に発展させたいと思います。

活動歴

2016年11月 ランチと喫茶のカフェ事業

2017年4月 配食事業、放課後クラブ
(毎週金曜日16時～18時)開始

団体情報

住所 〒247-0053 鎌倉市今泉台
6-1-9

TEL 0467-91-7300

FAX 0467-91-7300

Mail 6tixyoumeclub@gmail.com

URL FACEBOOK6丁目クラブ

<https://www.facebook.com/pg/6丁目クラブ-393671347678818/posts/>

❁ 助成した事業・活動

のびのび楽しい子どもの居場所プロジェクト
～コミュニティカフェ6丁目クラブ～

❁ 内容

おとなの見守りのなか、放課後の子どもたちが安心して過ごせる子どもたちの学び・遊びの場の提供

❁ 助成対象

スタッフ・ボランティアの謝金、交通費、事務局費用、家賃の一部

助成を受けて…の思い・メッセージ

コミュニティカフェがこの住宅地に誕生しているいろいろな世代の方たちがこの建物にいらして賑やかな場所となっています。カフェが終わった4時から、子供たちの放課後の居場所に出来るかもしれないと始めてみました。放課後の居場所です。

そろばん、プラバン、卓球、将棋、囲碁、バトミントン外遊び。段ボールで製作。遊びは尽きることがありません。5時になったらおやつタイム。皆でそろって上級生が「いただきまーす!」1年から6年までのその日の家族です。

助成を受けることができ安定した運営になり、遊び・学びの場として子供達の思い出のページ作りのお手伝いが出来ることを喜んでいきます。子育て世代の役に立っていることを願いつつ。



今日も小さな靴が並びます

将棋の時は真剣勝負



夏休みはお昼の手打ちうどん美味しかった

NPO法人 宮ノマエストロ

代表 高橋 裕子

横浜市泉区

助成金額
400,000円

団体紹介

設立年月

2018年4月

団体の目的・活動内容

地域に暮らす高齢者、青少年・児童及びその保護者に対し、介護予防・生活支援、子育て支援に関する事業を行うほか、地域住民の交流を目的とした集いの場を提供することにより地域住民の居場所をつくり、住民が共に助け合う社会を実現させ、地域社会の福祉の増進に寄与することを目的とします。

宮ノ前テラスは、赤ちゃんから小学生、中高生、シニアまですべての世代の人が緩やかに繋がりに困った時には支えあい、気軽に憩いの時を過ごせる心地よい居場所を作ります。

顔見知りを増やし人と人の繋がりを大切に、中田の良さを大切に、という思いを持った地域住民の自主運営の施設です。

取り組んでいる活動の思い

横浜市泉区中田地区は、昭和50年頃までは農業が盛んな地域であり、共助の理念が根付いた地域交流が盛んな地域でした。しかし農家の高齢化と世代交代による休耕地の増加に加え、平成11年の地下鉄の開通により宅地化が進み、古くからの住民と新しく地域に越してきた住民との二極化が進んでいます。そこで、多世代の地域住民が交流できる場を提供し、地域に暮らす住民が共に助け合うことで質の高い生活を送れるよう多世代交流スペース「宮ノ前テラス」を開設しました。

活動歴

2016年 6月 有志による初会合

2017年 5月 まち普請事業へ申請

2017年12月 NPO法人設立総会

2018年 1月 まち普請事業審査合格

2018年 4月 NPO法人設立

2018年 9月 「宮ノ前テラス」オープン

団体情報

住所 〒245-0013 横浜市泉区中田東
4-59-41

TEL /FAX 045-884-0246

Mail miyanomaesutoro@yahoo.co.jp

URL

https://miyanomaesutoro.amebaon
d.com/

❀ 助成した事業・活動

多世代交流スペース「宮ノ前テラス」

❀ 内容

赤ちゃんから小学生、中高生、シニアまでつながり支えあい気軽に過ごせる多世代交流スペース

❀ 助成対象

物品購入費、講師謝金、チラシ作成費

助成を受けて…の思い・メッセージ

2018年9月9日、宮ノ前テラスがオープンしました。それにさきがけて、7・8月に子ども向け夏休みイベントを多数企画し、子ども達がたくさん参加してくれました。

テラスでは、ランチ週3日、カフェ週4日、子ども食堂と自習室を毎週水曜日、親子ふれあいリトミックを毎週月曜日、ベビーマッサージ教室を月1回など、子どもや親子向けの活動を行って行く予定です。

ご支援いただきました助成金は、子ども支援の活動のために、有効に使わせていただきたいと思います。まだ周知されていないので、地域のみなさんに知っていただくための広報やイベント企画などにも力を入れていきたいと思っています。

これからの未来をつくる子ども達へ、良いスペースになるようがんばりたいと思っています。



学童ランチサポート

みやまえスタディ(自習室)



ベビーマッサージ教室



団体紹介

設立年月

2012年3月

団体の目的・活動内容

本会は、2・3歳の親子と保育士1名による自主運営グループから出発しました。青葉台近隣の自然豊かな公園や里山を拠点に、週2～4日、1歳半から20人前後の子どもたちが、ゆったりたっぴり泥んこになって遊ぶ「青空保育」を行っています。母親にとって低年齢時期は、外出しにくく孤立しやすく、子どもが活動的になり室内育児に行き詰まりやすい時期といえます。一番支援の必要な時期に外遊びを好む親子の育ち合いの場が必要だとの思いから自分達の手で創り上げてきました。

取り組んでいる活動の思い

「ひとりで子育てしないで」を合言葉に、様々な大人の見守りのなかで遊べる安心感、子どもの成長をていねいに共有して、育ちを喜び合う時間を大切にしています。

幼児期の自然体験の大切さを発信し、母親が希薄になりがちな人間関係を取り戻し、子育てを前向きに楽しめるようになる手助けをしていきます。

活動歴

2012年 自主保育として活動スタート

2018年 NPO法人格取得

団体情報

住所 〒227-0054 横浜市青葉区

しらとり台11-5-B-302 内藤方

TEL 090-9147-3027

FAX 045-983-0424

Mail aoba.penpengusa@gmail.com

URL

<http://jisyuhoikupenpengusa.blogspot.jp/>

Facebook

<https://www.facebook.com/AozorahoikuPenpengusa>

助成した事業・活動

子育て講演会と外遊び体験会「あそぼう会」の開催

内容

子育て講演会と外遊び体験会の開催を通じて「自然の中で大人も子どもも育ち合うすばらしさ、子育ての楽しさ」を発信する。

助成対象

講師謝金、施設使用料、託児費用、物品購入、保険の一部

助成をうけて…の思い・メッセージ

教育熱心な方が多く孤独な子育てに陥りやすい地域である横浜市青葉区で、子どもには外で遊ぶことが大切、親も子ども地域に根ざして、人と関わり合いながら子育てしようと呼びかけて7年目。今年は助成の後押しをいただいで、クーヨン編集長戸来さん講演会「外で遊ぼう。100のしつけより、大切なこと。」を9月21日に開催しました。講師の方とのご縁もあり、10月、11月にもアットホームな雰囲気に参加者どうし語り合えるような小さな講演会を企画中です。講演会に参加した方に「子育てに前向きな気持ちになれました」「交流会で話した人と仲良くなり、今度ぺんぺんぐさの外遊び体験会や、キャンプにも行こうと言っています」など嬉しい言葉をいただき、少しずつでも地域に活動を広げていきたい、と意欲が増しています。

あわあわの実
水や泥、身近な自然に触れて、
心が開いていきます



雨でも、雪でも、子ども
たちは今を楽しみます



外遊び体験会「遊ぼう会」。
お昼は車座になって保育士
とおしゃべり会…



おとなに言われたからではない、
自然な異年齢のかかわり



保育士と母親でつくる
あたたかい育ちの場



ちがさき開智舎

代表 井上 忠義 茅ヶ崎市

助成金額
65,000円

団体紹介

設立年月

2017年1月

団体の目的・活動内容

福祉活動の経験から、子どもの貧困、学習の落ちこぼれの改善が急務であると痛感し、生活保護世帯・ひとり親世帯児童を中心にきめ細かい支援活動を行うため、ちがさき開智舎のびしろクラブを開設し、個々の習熟度に沿った学習支援を行っています。

取り組んでいる活動の思い

- ・子どもを「社会の子ども」と位置づけ、学習支援の面から地域の福祉課題の解決につなげます。
- ・ちがさき開智舎が地域活動の先頭に立って、学童個々の「のびしろ」を探し、育みます。
- ・自分の頭で考え、自分の頭で判断し、自分の行動に責任を持つことを学習支援の中で習得し、地域コミュニティの再結成をめざします。

活動歴

2017年1月

生活保護世帯・ひとり親世帯児童を中心とした学習支援活動

団体情報

住所 〒253-0071 茅ヶ崎市萩園
1488-5
TEL 090-9241-0271
FAX 0467-57-0574
Mail sazan-rikujiji@blue.ocn.ne.jp

❁ 助成した事業・活動

「のびしろ」を探し伸ばそう!

小学生の学習支援を通じた青少年の健全育成

❁ 内容

学習過程で起こる小さな躓きを発見し、児童個々の習熟度を考慮した学習

❁ 助成対象

物品購入費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

のびしろっ子の幸せ

ちがさき開智舎では学童を「のびしろっ子」と呼んでいます。どの子も必ず持つ限らない可能性を「のびしろ」と位置づけます。のびしろを見つけ、引き出し育てることは、指導者の責務とスタッフは考えています。何時でも、何処でも、誰にでも「のびしろ」があることを、意識づける為でもあります。のびしろっ子21名はそれぞれ個性があり、週1回の学習日はとても賑やかです。勉強が始まると直ぐに「まこちゃん疲れちゃった」と机に臥せてしまう一年生の女の子、お喋りが止まらない二年生の女の子、ドリルを解きはじめる五年生たち。賑やかなのは大部屋のストロングポイントと受容しています。でも皆の出席率が高いのですからご安心ください。「ワイワイ、ガヤガヤ」のびしろっ子の笑顔がスタッフの活力です。

ちがさき開智舎の指導指針は①自分の頭で考える②自分の頭で判断する③自分の行動に責任を持つ。二年目を迎えた今、色々な場面で自発的に動くのびしろっ子が出てきました。受付に置かれたウエルカムボードは、のびしろっ子が描いてくれます。教えたり教えられたり学び合いも見られます。クラブでの様子は「のびしろクラブだより」に掲載しています。

かながわ生き活き市民基金様の助成金は、のびしろっ子の学習意欲を高め希望を大きく膨らましてくれます。ありがとうございます。



ウエルカムボード



ちがさき開智舎



クリスマスパーティー



学習風景

団体紹介

設立年月

1983年7月

団体の目的・活動内容

視覚障がい者の日常生活・外出援助や講習会の開催によって視覚障がい者に対する理解を広め、地域の見守り活動とたすけあいの実践につなげる。

取り組んでいる活動の思い

視覚障がい者に対する理解と基本誘導の仕方を一般市民に広く理解してもらい、地域での見守りとたすけあいの心を醸成したいと事業化しました。視覚障がい者が楽しくスポーツをしたり、安心してお買い物をしたり、意欲的な外出をサポートして充実した生活ができるように、また地域で生活している全ての障がい者に対して気軽に声をかけられるまちづくりの一助になることを願っています。

活動歴

1983年7月

視覚障害者の日常生活・外出援助を専門に活動するボランティアグループとして設立

2017年

春の褒章にて「緑綬褒章」に選ばれました。

団体情報

住所 〒252-0201 相模原市中央区
上矢部5-21-6

TEL 042-758-8017

FAX 042-758-8017

Mail
sasanokai_0709@yahoo.co.jp

助成した事業・活動

視覚障がい者の誘導入門講座事業

内容

市内小中学校、公民館、福祉施設等で一般市民、学生等障がい者のガイドに関心ある方に向けた講習会開催

助成対象

講師謝礼、チラシ、交通費、会場費、障害者用PC等借用費用 物品購入費

助成を受けて…の思い・メッセージ

ささの会が設立されて35年が経ち、視覚障がい者の外出時の誘導(外出介助)を中心に活動してきましたが、障害者自立支援法の施行と支援費制度の充実に伴い年々、誘導ボランティアの依頼と当会員も減少しました。

しかし、誘導には視覚障がい者の障害特性を理解し、最低限のマナーとルールを守ることが求められています。常に人権を尊重し、それぞれの個性を尊重して誘導することが誘導ボランティアにも求められています。

今回の助成により、このことを一般市民、学生等を対象に市内各区で障がい者理解と誘導の基本等を学ぶ講習会を行い、充実した見守りを広め、障がい者と子どもや高齢者にも安全で安心なまちづくりに寄与できることを願いつつ講習会の開催を行いたいと思います。また福祉の心が醸成され、ボランティア会員が増えることを期待しています。

先輩たちの意志を受け継ぎながら活動が続けられています。



学校では、視覚障がい者への声の掛け方など体験を通して基本的な障がい者理解を深めます。



専門の講師から視覚障がい児・者の環境や日常生活などについて誘導体験しながら学びます。



弱視(ロービジョン)者の体験

よこはま地域子育て支援拠点ネットワーク

代表 原 美紀
横浜市

助成金額
500,000円

団体紹介

設立年月

2013年9月

団体の目的・活動内容

本会は、2013年に横浜の地域子育て支援活動に関わる人が集まり、交流を深め、拠点事業及び市域の子育ち、子育て支援の問題・解決を点検・整理し、行政との協働事業への提案力を高めることにより、横浜における子育て環境の充実に寄与することを目的として活動を開始しました。

取り組んでいる活動の思い

よこはま地域子育て支援ネットワークは、横浜市次世代育成支援行動計画「かがやけ横浜子どもプラン」に位置付けられた事業として、2006年から1区に1か所の設置目標をもとに整備が進められ、2011年に18区に18拠点が設置されました。
2014年に行政主管課が主催する会議と並行して、民間主導型で「実践者同士が学び合い、相談できる環境づくり」「事業拠点の目的をかかなえるための活力ある自主的ネットワークづくり」の必要性をそれぞれ感じ、子育て支援拠点の施設長を中心に立上げ、連携や実践者の関わり、マネジメントや支援の質向上に努めてきました。

活動歴

2014年

利用者支援事業導入にあたり、「利用者支援事業を考えるフォーラム」開催
集客300人

2015年

神奈川区で利用者支援事業基本モデル事業開始

2016年

全拠点で利用者支援事業基本型「よこはま子育てパートナー」配置に伴い勉強会を2回開催

2017年

課題別のグループに分かれ活動
現在に至る

団体情報

住所 〒222-0037 横浜市港北区
大倉山5-40-3大倉山壱番館207
TEL 045-540-7422
FAX 045-540-7421

助成した事業・活動

常設型子育て支援の「場」がもたらす子育て家庭の社会性発達への効果分析と今後の地域福祉の課題解決に寄与する影響力を検討する活動。

内容

「子育て広場利用者の社会性発達度調査」の検証・分析による考察共有会と成果分析マネジメント勉強会。
報告集の作成、フォーラムの開催。

助成対象

講師謝金、交通費、会場費、報告集作成費、保険

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

この助成金からの支援で、2017年に実施した3歳児乳幼児健診でのアンケート調査研究から見えてきた結果をもとに、「場」を持つ支援現場の実践者と今後の支援のあり方と可能性、関わる支援者のスキルアップ等を提言し市民および行政側にもその価値を発信していく活動を行いたいと考えています。

ありがとうございました！



ひろばの様子



マタニティベイビー



利用者支援事業スタート: 拠点機能を基盤に、個別支援と地域連携をさらに深める

子育て支援拠点が考える地域力創出のイメージ

団体紹介

設立年月

2016年12月

団体の目的・活動内容

「誰も置き去りにしない」「救われる側から救う側に」を基本理念に、シングルマザー・シングルファザーへの食料等の無償支援、子ども食堂への食材等の無償支援、中高生に対するお米の無償支援等を行っています。

取り組んでいる活動の思い

これまでの食料支援活動を通して、経済的困窮家庭の子どもたちが教育格差の問題に直面している事実を目の当たりにし、こうした「貧困の連鎖」を断ち切るためには、経済的困窮家庭の子どもたちに無償で充実した教育を提供することが不可欠だと考え、無料子ども塾を設立しました。

教育面で同じスタートラインに立つことで、すべての子どもたちが夢や希望を持って未来像を描けるようになればと思います。

活動歴

2016年より 食料支援活動、子ども食堂への食材支援

2018年度より 子ども無料塾を開講

団体情報

住所 〒221-0052 横浜市神奈川区
栄町16-1-304

TEL 045-512-4965

FAX 045-512-4965

Mail thanks@fbyokohama.jp

URL <http://www.fbyokohama.jp>

助成した事業・活動

教育格差による貧困の連鎖を防ぐ「子ども無料塾」の設立および拡大

内容

横浜市内2か所で子ども塾を開催し、eラーニングシステムによる学習支援を行い、教育格差の是正や貧困の連鎖の防止につなげる。

助成対象

ソフトシステム開発費、パソコン購入費

助成をうけて…の思い・メッセージ

「経済格差」が生み出す「教育格差」によって、生活困窮家庭に育つ子供たちは、初等教育課程のスタートラインに立った時点で既にハンディを背負っています。このハンディを取り除き、質の高い教育を受ける機会をすべての子どもたちに与えられる様、今回の助成を生かしていきたいと思っています。

SDGsに掲げられた「質の高い教育をみんなに」を具現化するための取り組みですが、9月に開講した「こどもみらい塾」に参加する小中学生が3時間、4時間集中して学習する姿を見て、大きな手ごたえを感じています。

今後、多くの家庭に私たちの取り組みを知ってもらい、1人でも多くの子どもたちに参加してもらえそうな活動を進めていきたいと思っています。

子どもたちの学習状況はe-Learningシステムによりリアルタイムにモニターされ管理されています。



自発的に3時間以上集中して学習に取り組む小中学生たち。



単元テストなどで点数を獲得するごとに自動的にポイントが貯まり、一定ポイントごとに好きな食料品（お米、缶詰、おやつ、ドリンクなど）をGETできます。

NPO法人 南えびなスポーツクラブ

理事長 小林 直樹

海老名市周辺

助成金額
159,000円

団体紹介

設立年月

2015年12月

団体の目的・活動内容

海老名市を中心とした地域に在住、在勤する人達に対してスポーツ、レクリエーション活動に関する事業を行い、スポーツ、レクリエーション活動の発展や地域の人々の健康増進への寄与、地域の人同士の交流の場を増やすことを目的とする。

取り組んでいる活動の思い

障がいを持つ方や不登校の子どもたちは、公共の施設や多くの人が入り出する場所での活動を気にして嫌がる傾向もある。このような障がいを持つ方が定期的に体を動かし汗を流すことにより、日頃の運動不足やストレスを解消し、安定した生活リズムにつながり、さらに仲間との交流も図ることができる。また、不登校の子どもたちがフットサルや卓球などを仲間と共に活動し、スポーツの持つ楽しさを味わい、汗を流すことによって、安定した日常生活につながり、他人と交流することにより、自分に自信を持つようになることが期待される。

保護者や地域の住民にとっても、障がいを持つ方や不登校の子どもたちが、家から外に出て積極的にスポーツに取り組むこと、地域に住む誰もが健康でスポーツを楽しむことができるということは、社会にとっても大変有意義であると考えられる。

活動歴

地域の子どもたちにサッカーを指導することを通して、成長した大人、保護者など地域の人たちが誰でも色々なスポーツを楽しめるようにと、このクラブを立ち上げました。

団体情報

住所 〒243-0417 海老名市本郷
5030-2

TEL 080-1084-5585

FAX 046-247-5023

Mail soccer-koufu@live.jp

URL <http://minami-ebina.sub.jp/>

❀ 助成した事業・活動

エンジョイフットサル、エンジョイスポーツ

❀ 内容

障がいを持つ方を対象にしたフットサル、不登校の子どもたちを対象にしたスポーツ活動

❀ 助成対象

家賃補助、物品購入費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

海老名の南にある少し怪しげな倉庫の中にあるスポーツ施設を利用して、活動しています。しかし、参加者はドアを開け中に入ると同時に、積極的に着替えなど準備をして、汗を流しながらフットサルや卓球、パドミントンに集中して取り組んでいます。

今回、助成を受け、これらの活動をさらにアピールをして仲間を増やし、盛り上げたいと考えています。自分がやりたいと思った時に気軽に体を動かし汗を流せるという環境も作りたいと考えています。



今回は卓球に集中しています。



フットサルボールを足裏でコントロール



南えびなアリーナ

団体紹介

設立年月

2003年2月

団体の目的・活動内容

介助犬制度の確立を目的とした調査研究からスタートし、身体障害者補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)の法制化と基準作成、アドボカシーを中心とした情報提供・相談業務を行う国内唯一の学術団体として活動を展開している。

取り組んでいる活動の思い

体験型のプログラムを通して自発的な真の「気づき」を生み出し、その人自身のその後の生活の中で周囲の社会や障がいの捉え方が変わるような効果を出したい。また、聴導犬、聴導犬ユーザーと接することで、障がい者を身近に感じ、自分にもできることがあるという「自尊心の向上」に繋げていきたい。

本プロジェクトを通して、「障がいとは何か?」を子どもたちにも分かりやすく伝えるため、補助犬が持つポジティブな力を借り、楽しく「障がい者とは何か?」を考え、気づき、その後の生活の中で活かせるように導きたい。

このセミナーを受けた子どもたちや、県民の方々が、自分に出来ることを考え、当たり前のように声をかけられるようになること、神奈川県全ての人が安心して活躍できる社会になることを目指したい。

活動歴

1998年 任意団体として活動開始

2003年 NPO法人格を取得

団体情報

住所 〒223-0057 横浜市港北区

新羽町1688-1-B203

TEL 045-275-7770

FAX 045-275-7771

Mail info@jsdrc.jp

URL <http://www.jsdrc.jp/>

❁ 助成した事業・活動

「聴導犬って知ってる?」

～身体障害者補助犬フレンドリープロジェクト～

❁ 内容

神奈川県内の小中学校、一般市民向けセミナーの開催

❁ 助成対象

講師謝金

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

今回の助成を通して、神奈川県の方に「補助犬について知ることでの障害理解」の機会を作っていきたいと思っています。聴導犬ユーザーさんと一緒に行う体験型のプログラムを通して、自発的な「真の気づき」を生み出し、周囲の社会や障害の捉え方が変わるような効果を提供します。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会後もレガシーとして残る「心のバリアフリー」を実現させるためにも、頑張って活動してまいります。神奈川県を「補助犬同伴拒否ゼロ」の街に!



オリジナルデザインTシャツを着て



小学校での補助犬授業の様子



左から盲導犬、聴導犬、介助犬

🍷 賛助会員募集

公益財団法人かながわ生き生き市民基金は、助成事業（福祉たすけあい基金、エラベル）、研修・セミナー事業（フォーラム開催、報告書発行）、相談・助言事業（フードバンク支援業務受託、遺贈・生前寄付＝準備中）、広報事業の4つの事業を行っています。かながわ生き生き市民基金では、当財団の活動を継続的に支援して下さる「賛助会員」を募集しています。賛助会費は財団の運営に活用します。賛助会員としてかながわ生き生き市民基金への応援をお願いします。

会費	個人会員	年会費（1口 1,000円）1口以上
	法人・団体会員	年会費（1口10,000円）1口以上

- 賛助会費は当財団への寄付となり、税制優遇処置の対象となります。
- 賛助会員として支援いただくと下記のような特典があります。

会員特典

- ・ 年次報告書の送付
- ・ 助成団体報告書「福祉たすけあい基金BOOK」の送付
- ・ フォーラム報告書の送付
- ・ 当財団が企画開催するイベントへのご招待（フォーラム、贈呈式）

公益財団法人かながわ生き生き市民基金 賛助会員規程

（目的）

第1条 この規程は、公益財団法人かながわ生き生き市民基金（以下この法人という）の事業の発展のために協力する賛助会員に関して、必要な事項を定めることを目的とする。

（資格）

第2条 この法人の目的に賛同し、その事業に協力しようとする個人又は法人は、会員になることができる。

（入会）

第3条 会員になろうとする者は、所定の入会申込書を提出しなければならない。

（会費）

第4条 会費は入会時に年会費を納入し、以降、年会費を毎年納入しなければならない。
 2. 年会費は次のとおりとする。
 (1) 個人賛助会員 1口 1,000円 1口以上
 (2) 法人・団体会員 1口 10,000円 1口以上
 3. 会員が納入した年会費は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

（特典）

第5条 会員はこの法人が提供する次の情報・サービスを受け取ることができる。
 1. 年次報告書 2. フォーラム報告書 3. 助成団体報告書 4. この法人が企画開催するイベントへの招待

（退会）

第6条 会員は退会届を代表理事に提出し、任意に退会することができる。
 2. 会員は次の事由により資格を喪失する。
 (1) 法人の解散又は個人の死亡
 (2) 会員が正当な理由なく年会費を滞納し、かつ催告に応じないとき。

（会費の用途）

第7条 会費はこの法人の公益目的事業を推進するための活動費用（事業費・管理費）に使うものとする。

（改正）

第8条 この規程の改正は、代表理事が理事会の決議を経て行う。

附則

1. この規程の施行に関し、必要な事項は別に定める
2. この規程は2018年8月11日から施行する。



「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い

神奈川県内での福祉たすけあいの市民活動支援へのご寄付をお願いします。
公益財団法人かながわ生き生き市民基金では、毎月100円の寄付(手続き上、年間分一括振込)をお願いしています。寄付金のうち65%を「福祉たすけあい基金」の助成金として活用します。また、35%は公益財団法人の運営費(管理費、広報費、市民活動のネットワーク費など)として使わせていただきます。現在1万人を超える方々が継続寄付に賛同されています。
年度ごとの事業活動報告書は財団のホームページからご覧になれます。

賛助会員・福祉たすけあい基金寄付申し込み方法

35ページの申込用紙に必要事項をご記入いただき、

①郵送、②ファックス(045-620-9045)、③E-mail、のいずれかで当財団まで送付ください。

住所:222-0033 横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6階

FAX:045-620-9045迄

E-mail:info@lively-citizens-fund.org

上記手続きが済みましたら以下の方法にてご入金をお願いいたします。

●郵便振替

記号番号 00250-0-72370

公益財団法人かながわ生き生き市民基金

※通信欄に「賛助会費」か「福祉たすけあい基金寄付」かのいずれかをご記入ください。

●銀行振込

中央労働金庫 新横浜支店(334) 普通 3603639

公益財団法人かながわ生き生き市民基金

●現金書留

送付先:〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-2-15 6F

公益財団法人かながわ生き生き市民基金 行

税制優遇が受けられます

公益財団法人かながわ生き生き市民基金へのご寄付は、確定申告により以下の様に税制上の優遇措置を受けることができます。

所得税控除……………(公益法人への寄付総額-2,000円)× 40%

県民税・市町村民税控除…(同上)× 10%

例:横浜市在住の方が10,000円をご寄付された場合

(10,000円-2,000円)×50%=4,000円が控除されます。

詳しくは財団ホームページか、お住まいの自治体・税務署でご確認ください。



賛助会員・福祉たすけあい基金寄付 申込書

貴財団の趣旨に賛同し、(賛助会員・福祉たすけあい基金寄付)に申し込みます。

※この用紙をファクス(045-620-9045)または郵便でお送りください。

※この用紙を当財団ホームページからダウンロードして、メール送付でも結構です。

申込年月日*	20 年 月 日		
申込種別*	<input type="checkbox"/> 賛助会員(個人)	<input type="checkbox"/> 賛助会員(法人・団体)	<input type="checkbox"/> 福祉たすけあい基金寄付
ご氏名* (法人/団体名)	(フリガナ) (法人・団体の場合、ご担当者:)		
ご住所*	〒		
TEL*		FAX	
Eメール			
ホームページや広報物へのお名前掲載*	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 匿名希望	
メールマガジンや広報物の送付、イベント案内など*	<input type="checkbox"/> 必要	<input type="checkbox"/> メールマガジンのみ必要	<input type="checkbox"/> 不要
メッセージなど 自由にお書きください			

*印は必ずご記入ください。

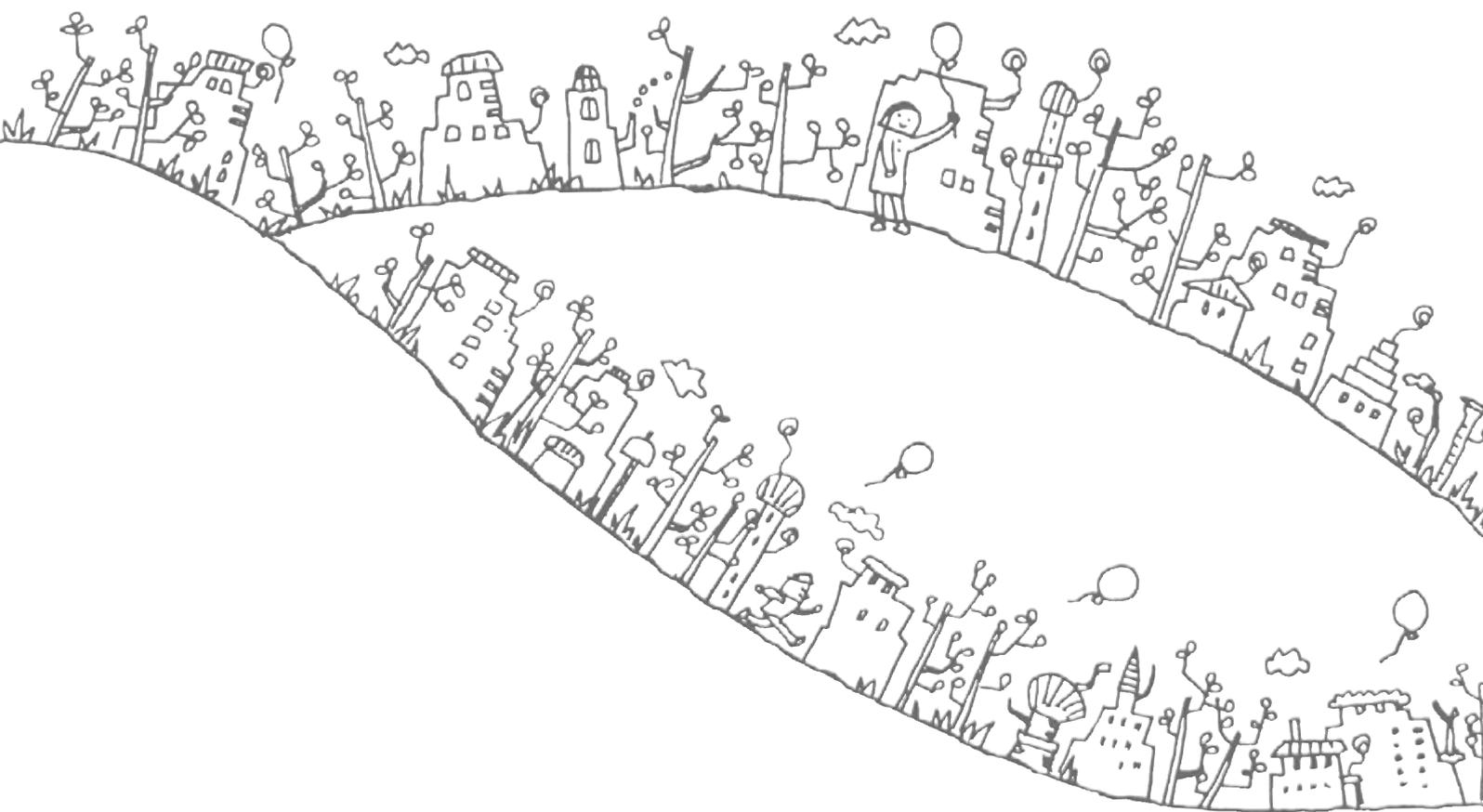
<input type="checkbox"/> 賛助会員 (個人会費)	申込口数 () <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 1,000 円以上、何口でも ※会員の期間は、4月～翌年3月となります。		
<input type="checkbox"/> 賛助会員 (法人・団体)	申込口数 () <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 10,000 円以上、何口でも ※会員の期間は、4月～翌年3月となります。		
<input type="checkbox"/> 福祉たすけあい 基金への寄付	寄付金額 () 円 1,200 円以上、いくらでも		
領収書発行	※当財団への賛助会費・福祉たすけあい基金への寄付は寄付控除の対象となります。 <input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要		
お支払い方法	<input type="checkbox"/> 郵便振替 記号番号 00250-0-72370	<input type="checkbox"/> ろうきん 新横浜支店(334) 普通 3603639	<input type="checkbox"/> 現金書留 <input type="checkbox"/> 手渡し
名義:公益財団法人かながわ生き生き市民基金			

※いただいた個人情報は、領収書の発行、財団からの各種ご案内の送付以外の目的では一切使用致しません。

送付先

公益財団法人かながわ生き生き市民基金

※郵送、FAXでご提出ください。



発行：公益財団法人 かながわ生き生き市民基金
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6F
Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045
Mail: info@lively-citizens-fund.org
URL: <http://www.lively-citizens-fund.org/>
Facebook: <https://www.facebook.com/livelycitizensfund>
発行日 / 2018年11月